

読書活動を通じて 個性的な表現を探し、紹介する

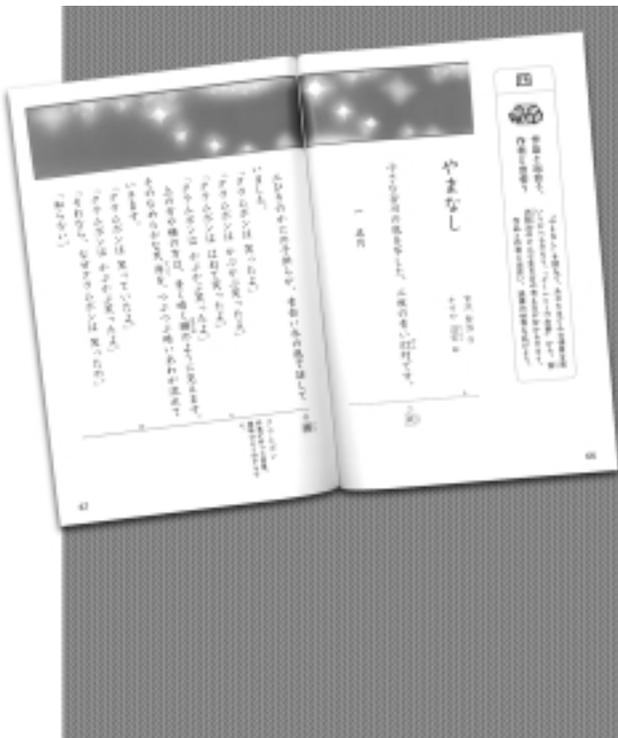
六年(上)四 作品と出会う、作者と出会う

「やまなし」「イーハトーヴの夢」

「作家と作品に出会う」

「作家と作品」展示コーナーを作ろう」

(十六時間)



一 紹介文を書くことを目的にした読みに

作品に出てくる表現は、作者の生き方や考え方と深くかかわっています。「イーハトーヴの夢」では、作者の人生を垣間見ることが出来ます。本実践では、まず「イーハトーヴの夢」を読んで、作者の人物や人生について知り、その上で「やまなし」に出会うよう設定しています。「やまなし」の個性的な表現を、作者の生き方と重ね合わせて読んでほしいからです。造語、擬態語、色彩を表す語、比喻表現など、賢治の独特な表現に着目させるようにします。読解ではなく、書く活動(紹介文)につなげるための目的的な読みになるよう指導者は意識したほうがよいと考えました。

第二次の読書活動を通して探した個性的な表現をもとに、第四次では、カルタ作りをします。取り札の裏には、作品と作者の生き方とのかかわりについて紹介文を書きます。発表会やカルタ会を通して、友達の気つきに学ぶこともできると思います。第五次では、発展的に他の作家(金子みすゞ)の作品を読み、

作品と作者の生き方とのかかわりについて紹介文を書きます。

ここで学んだ作者の個性的な表現が、やがて児童の表現に生きるとを期待するものです。

二 指導計画(全十六時間)

第一次「イーハトーヴの夢」を読み、宮澤賢治について知る

「イーハトーヴの夢」を読む。

作者の生き方・考え方・人柄などを読み取る。

第二次「やまなし」を読み味わう

「やまなし」を読み、感想を書く。

「五月」の表現を読み味わう。

「十二月」の表現を読み味わう。

「五月」「十二月」を対比しながら読む。

第三次作者(宮澤賢治)の作品を読む

「注文の多い料理店」を読み、個性的な表現を探す。

「読書の手引き」を参考に、その他の作品を読む。

作者の生き方・考え方が作品にどう反映されているか話し合う。

第四次 個性的な表現と作者の生き方を紹介する

個性的な表現を取り上げ、カルタを作る。

(取り札の裏に作者の生き方について紹介文を書く。)

紹介文の発表会をする。(全体 グループ)

* (教科外の時間でカルタ会を一時に行う。)

第五次 他の作家の作品を読み、個性的な表現などを紹介する

金子みすゞの作品を読み、紹介文を書く。

発表会をする。(輪読する。)

三 「読書の手引き」を活用して目的に沿った読みを(第二次)

第一時には「読書の手引き」を配り、その中から教師が「注文の多い料理店」を朗読します。(資料は人数分印刷したものを配布。)読後に、「読書の手引き」の下欄に個性的な表現や作者の生き方などを書き留めさせます。「読書の手引き」に紹介した作品はすべて児童数分印刷しておきます。

第二時には、「読書の手引き」を見ながら他の作品を自由に読書します。第一時の様子で支援が必要な児童には、絵本やカセットブック(ヘッドホン使用)を利

用して読ませたり、教師が朗読したりして対応します
 (教師が朗読するのは「雨ニモマケズ」「永訣の朝」注
 文の多い料理店・序文」など)。公立図書館などから団
 体貸し出しなどで、なるべくたくさん本を集めておき、
 家庭などで自由に読書させるようにします。

第三時には、作者の生き方、考え方がよく表れてい
 る表現について、「読書の手引き」の下欄を参考に話し
 合います。

【第四次】

第一〜三時には、「読書の手引き」の下欄を参考に、
 読書した賢治の作品の中から個性的な表現が含まれる
 文を選びます。読み札にはその文(題名も)を複写し、
 取り札には絵と文と題名をかきます(絵は挿絵の「コ
 ー」を貼るか、簡単なデッサン程度。同じ書きだしが複
 数になるので文を前半だけでも書いておく)。取り札の
 裏には紹介文(作者の生き方、考え方
 とのかかわり)を書きます。一人二〜
 五組くらい札を作ります。

第四時の発表会では、まず代表者六名
 が読み札と紹介文を全体に発表します。
 次にグループで発表をします。

・(グループ)このカルタ会は教科
 外で行います。)

*ここまでの学習を、読書活動、
 「読書の手引き」下欄への記述、
 カルタの紹介文の取り組みの様子
 などで評価し、支援の必要な児童
 には、第五次でも支援を行います。
 (第二次の第二時参照)

五 評価について
 「やまなし」「イーハトーヴの夢」
 の読み取り、他の作品の読書、カル
 タ(紹介文)作りの各段階で、学習
 シートの書きぶりなどをチェックリ
 スト(省略)を使って評価します。
 毎時間の自己評価も参考にします。

【読書の手引き例】

注文の多い料理店	名	枚数	個性的な表現	作者の生き方
一人の騎士が狩りの帰りに西洋料理店 6に立ち寄ります。ところがその料理店 には次々とひらがあり、必ず何か注 文が書いてあるのです。	あらすじ	1	個性的な表現	作者の生き方



作者は「雨ニモマケズ」ではめづらしい
 にせせりやい着にむらしたと書いています。
 遠く公園林にもどればがしこくたれ
 が賢くないかはわがりませんと書いて
 ありました。ほかどううな者がえら
 というところが作者らしいのです。
 この考えは作者のいろいろな作品
 に出ています。

雨ニモマケズ(巻)	水鏡の朝(巻)	注文の多い料理店	どんぐりと山猫	雪渡り	なめと山熊	セロ弾きのゴーシュ	グスコブドリ の伝記	風の又三郎	ツェネすみ
2	2	6	6	5	7	8	19	24	4
作者の考え方がよくわかります。 駄トシの死をうたったものです。	なぜ物語を書いたか、なぜ出版したか について作者が語っています。作者を 知る上でとても参考になります。	ある日、一館の家に山猫からのおかし なハガキが届きます。めんどろなさい ばんがあるのので一館の考えを聞きたい というのです。そのさいばんは「 四館とかん子は、ある雪の日の野原で 子ぎつねの紺三郎と出会います。二人 はきつね小学校のげん灯会に招かれま す。入場券には二十以上はお断りされ 書かれてはいます。」	小十郎は狩りをして暮らしています。 しかし小十郎は熊が近くで殺すので はなれない。熊たちも小十郎が好きなの です。ある夏、小十郎は一匹の熊と出 会い、「殺すのは」もう二年待ってて れ。」と語られます。	ゴーシュは町の活動写真館でセロ(チ エロ)を弾いています。でも、うで前 は大変下手でしたのでいつも義長に比 べられています。そんなゴーシュの家 へ毎晩三毛猫やかっこうやたぬきや野 ねすみが代わるかわるやっつけてセロ を弾いてくれたのみです。	グスコブドリは生れた村はたびたび 寒さにおそれイネが一匹も売らない 事がありました。ブドリはイーハトー ヴ火山山麓に勤め、火山をふん火させ気 候を暖かくし村を救おうと考えま す。でもその仕事に行く者のうち最後の一人 はどつしでも逃げられないのです。	九月一日、小さな小学校に一人の転校 生がやってきました。その転校生は又三郎 と名を呼びました。	ツェネすみは文句ばかり言つので昔に 4いやがられていました。そんな中で、 最後まで付き合ってくれていたのは針 金を編んで作られたたねすみの取りでした。		
「コファンボー」	「雪渡り」	「風がどつと吹いて 水鏡の朝」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」	「自然が好きなら 自然が好きなら」
自分にもめづらしい人	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら	自然が好きなら